

白蛇山は標高100m、浦川内の南1.5kmの処にあって、古代人の住居跡として亦鎌倉時代から真言宗の寺院跡として貴重な文化遺産である。わが伊万里では約1万数千年前頃からこの白蛇山や、辻堂、上白幡一带に住んでいた。この時代を先土器時代の後期と云う。

昭和46～47年にわたり、佐県立博物館が中心となって発掘調査が行われた。その結果13層からなっており、上位九層は縄文期の地層、下位三層は先土器時代の地層であることが確認された。即ち地面に最も近い二層からは約三千年程昔の遺物が発見され、下層に下るに従って紋様の異った土器や細石器等が多数出土した。最下層の十三層からは約一万二千年もの先土器時代に使用された細石器類が出土した。このことは今を去る一万二千年前から近くは三千年昔の間約九千年の長きにわたって古代人がこの岩蔭に住んでいたことを物語る貴重な住居跡である。

この他に西有田町盗人岩洞穴や坂下遺跡亦長崎県泉福寺洞穴、岩下洞穴、福井洞穴等も白蛇山遺跡と時代を前後した古代人の住居跡がある。

亦白蛇山は佛教寺院の跡として貴重な遺跡でもある。即ち今を去る約八百年の昔鎌倉時代の真言宗の修験道場跡であり山岳寺院跡としての貴重な遺跡である。尚松浦党山代氏の菩提寺跡でもあった処で旧岩戸山宝積寺の奥の院でもあった跡である。

岩の上を仰ぎ見ると岸壁伽藍の大棟の穴の跡が残っており、その岸壁には多数の小佛がんを始め、小磨崖佛八体、この他三味耶(三味)五輪数基の石佛、十一基の宝篋印塔その他有径五輪塔等数多くの貴重な石造物が存在している。亦前庭には元寇の役に勲功のあった、山代譜(山代)栄親子の供養塔がある。

岩下の小堂宇には薬師如来座像が安置され信者の信仰が厚い。この様に白蛇山は、古代人住居跡として、中近世の宗教遺跡として、考古学的にも宗教的にも重要な遺跡である。

